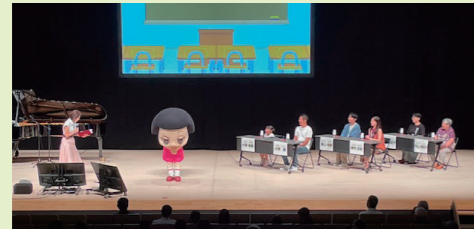


防災ワークショップ「災害からペットを守る」について!!

令和7年8月30日(土)13:00から、福岡市民ホール(中ホール)において、災害からペットを守るための日頃の準備や心構えを学ぶことを目的に、「災害からペットを守る～犬や猫、私たちの命を守るために大切なことは?」と題した防災ワークショップが開催されました。(主催:(公財)日本動物愛護協会)(後援:福岡県獣医師会、福岡市獣医師会、福岡県、福岡市、西日本新聞社、NHK福岡放送局)

第3部では、VMAT創設者で九州災害時動物救援センターの副センター長を務める船津敏弘先生がゲストとして登壇し、熊本県でのVMATの対応や九州災害時動物救援センターの役割について解説しました。



○第1部:避難シミュレーション

災害時の適切な行動と日頃の備えを確認するため、大地震を想定し、在宅避難、マイカー避難、避難所避難の3パターンについて、適切な行動や日頃から備えておくべき備品を検討しました。

○第2部:チョコちゃん防災クイズショー

防災に関し、チョコちゃんによるクイズ形式で防災の知識を学ぶ授業が行われました。

○第3部:災害現場に学ぶQ&A

船津敏弘先生を交え、熊本地震の際の課題を整理し、VMAT活動や、災害時動物救護センターでの飼い犬・猫の一時預かり支援について談論されました。



チャリティーゴルフコンペ(伊都ゴルフクラブ) 令和7年10月29日



一般社団法人九州動物福祉協会
理事長 都築 仁子

恒例となりますチャリティーゴルフコンペを今年度も伊都ゴルフクラブにて開催いたしました。今回は例年よりも多く45組173名にご参加をいただき、盛大に開催することができました。チャリティーにご賛同頂いた参加者をはじめ、協賛頂いた企業の皆様への感謝とともに、これからも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



寄付のご報告

①「九州災害時動物救援センター」への一般寄付	
平成28年度～平成30年度	15,480,633
令和元年度～令和3年度	4,055,239
令和4年度	425,979
令和5年度	434,513
令和6年度	785,303
令和7年度	1,325,710
累計額	¥ 22,507,377

② 一般社団法人九州動物福祉協会 賛助会員
(R8.3月末現在)

	個人	法人	合計
会員数	20	56	76
入会口数	88	165	253
入金額	88,000	1,650,000	¥1,738,000

皆様のご理解とご協力で心より感謝申し上げます。

このえ 九重の風



No. 11

一般社団法人九州動物福祉協会
福岡県福岡市中央区渡辺通 5-2-25 7F

自由民主党参議院 議員会長の松山政司様より メッセージを頂きました。



自由民主党参議院
議員会長
松山 政司

都築仁子理事長、草場治雄副理事長、全国都道府県議会議長会会長であり、本年4月、世界獣医師会会長に就任された蔵内勇夫理事をはじめとする一般社団法人九州動物福祉協会の皆様には、日頃より人と動物が共に暮らす社会の実現に向けて、行政や関係機関と連携した取組を推進されてお

りますことに深く敬意を表します。

特に、貴協会が運営する「九州災害時動物救援センター」は、日本初の災害時被災ペットの保護を目的としたペットシェルターとして、被災者の生活再建に大きな支えとなっています。熊本地震では、ほぼ全てのペットが家族との生活に戻ることができました。被災された人や動物のいのちを守る先進的な九州発の取組に誇らしい思いでいっぱいです。

こうした取組は、福岡県が先進的に推し進めている、人の健康、動物の健康、環境の健全性を一体のものとして、相互に関係し合う中で守っていこうとする「ワンヘルス」の理念と深く結びついています。

福岡県では、2010年に福岡県獣医師会が活動指針「動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。」を定めたのを皮切りに、福岡県獣医師会と福岡県医師会との学術協定の締結、「第2回世界獣医師会・世界医師会ワンヘルスに関する国際会議」の北九州市での開催と、医師と獣医師の連携・協力、ワンヘルスの概念の理解や実践を含む教育の充実等を柱とする「福岡宣言」の採択など、ワンヘルスを巡る取組を着実に進めて参りました。

そして、2021年には「ワンヘルス推進基本条例」が公布され、感染症や薬剤耐性対策、人と動物の共

生社会づくり、環境との調和に取り組むことが盛り込まれるなど、議会、行政、医師会や獣医師会など関係機関が一体となった取組を深めています。

2023年にはアジア獣医師会連合(FAVA)の「FAVAワンヘルス福岡オフィス」が開所され、さらに、2027年には、行政においても全国初となる「ワンヘルスセンター」が供用されるべく、準備が進んでいます。

最近では、「福岡県ワンヘルス国際フォーラム」の第6回大会が本年2月に開催され、天皇皇后両陛下の御臨席を仰いだ第41回世界獣医師会大会へとバトンが繋がりました。

まさに福岡が日本、アジア、そして世界のワンヘルス活動の実践拠点として、大きく羽ばたくための体制整備が着実に進んでいます。

こうした福岡県の取組みが国にも拡がり、3年前には自民党の国会議員による「ワンヘルス推進議員連盟」が発足し、麻生副総裁が最高顧問、林総務大臣が会長に就任され、私も会長代理を拝命しました。政府と連携して、ワンヘルスを国全体の取組みとするべく活動するなか、本年2月20日の第221回国会では高市総理の施政方針演説にて「ワンヘルス(One Health)」の取り組みを政府として推進していくことを明確に表明されました。

最後に申し上げますが、人と動物の健康に関わるテーマは、人獣共通感染症に代表される感染症対策のイメージが強いかもしれませんが、人と動物の切っても切れない関係性の中で、動物福祉の向上は重要な社会的課題と位置付けられます。

今後も貴協会には、動物福祉の立場からも、ワンヘルスの理念を共有し取組に反映していただくことを期待いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

熊本県知事より動物愛護功労者表彰を授与されました！

令和8年2月5日(木)、未曾有の熊本地震から10年の節目を迎えるにあたり、当時発災直後の被災ペット受け入れに尽力しました「一般社団法人九州動物福祉協会」及び「一般社団法人熊本県獣医師会」に対して、木村敬熊本県知事より動物愛護功労者表彰が贈られました。

知事は挨拶の中で、発災当時の被災動物支援への感謝に加え、当協会の活動を高く評価していただくとともに、その活動を熊本県民にも周知していくと述べられました。

また、都築仁子理事長の謝辞では当時総務官僚として復旧支援に奔走された木村知事への敬意と関係機関のご協力に対する感謝とともに、「ワンヘルス」の理念に基づき人と動物のより良い関係づくりによる動物福祉向上への決意を示され、同席し

た藏内勇夫理事からは、まさに熊本地震が発生した当時の混乱の中で、九州災害時動物救援センターを大幅に前倒しで整備したエピソードが披露され、今後「ワンヘルス」の理念のもとで、いかなる災害が起ころうとも人と動物の絆が守られる環境の構築に尽力していくと力強く述べられました。

懇談の中では、「熊本地震ペット救護本部」で部長として陣頭指揮を執られた穴見盛雄前会長はじめ熊本県獣医師会に対しても草場治雄副理事長より感謝が述べられました。



各地でワンヘルス普及推進イベント等が多数開催されました!!

OKOKO ONE FES(ここわんフェス) (令和7年9月28日(日))

玖珠郡九重町のNU:KUJU(旧くじゅうやまなみ牧場)で「KOKO ONE FES 2025」(主催:ここのえペットツーリズム協会)が開催されました。防災ゲームや命の授業、ドッグトレーナーによる相談会などの体験型企画のほか、草原ドッグランや約60の出店が並び、多くの来場者と愛犬で賑わいました。



○小郡市民まつり(令和7年10月19日(日))

小郡市生涯学習センター七夕広場、文化会館で小郡市民まつり(主催:小郡市民まつり実行委員会)が開催されました。キャラクターとのふれあいイベントに、地元のご当地キャラクターと共にワンヘルスぼうやも出演し、来場者とふれあいながらワンヘルスの普及推進活動を行いました。



○ワンヘルスフェスタ2025in北九州&筑後! (主催:福岡県)

in北九州:令和7年10月25日(土)県営中央公園
(共催:ワンヘルス実行委員会)

in筑後:令和7年11月8日(土)筑後広域公園芸術文化交流施設 九州芸文館
「広げ繋げようワンヘルスの輪(ONE)」をテーマに、ふれあい動物園やドッグラン、ワンヘルスの謎解きウォーキングなどが開



催されました。また、ステージイベントや高校・大学によるワークショップ・展示、ワンヘルス宣言事業者のブース出展、福岡県ワンヘルス認証商品の販売など、ワンヘルスを身近に感じられる多彩な企画が行われました。

○ワンヘルスセンター起工式(令和7年11月5日(日))

みやま市で「ワンヘルスセンター」(令和9年12月完成予定)の起工式が行われ、服部誠太郎福岡県知事や藏内勇夫福岡県議会議長(理事)、関係団体、自治体代表、地元小学生らが参加し、入土式が行われました。人獣共通感染症や地球温暖化などのワンヘルス課題に対応するため、人・動物・環境の健康を一体的に守る全国初の「ワンヘルスセンター」が整備されるもので、福岡県保健環境研究所と筑後家畜保健衛生所の移転と、愛玩動物・展示動物・野生動物の保健衛生を担う動物保健衛生所の新設により構成され、各分野を横断した調査・研究を行う拠点となります。式典で知事は、福岡からワンヘルスの理念を全国・世界へ広げたいと述べ、藏内理事は研究者交流や感染症データ共有の重要性を強調しました。



○第5回ワンヘルス楽校(令和7年11月20日(木))

みやま市立瀬高小学校で「第5回ワンヘルス楽校」(主催:みやま市)が開催されました。小・中・高校生が環境や健康、地域研究など「私のワンヘルス」をテーマに発表し、ワンヘルスの理解を深めました。



○令和7年度学校給食フェア(令和8年2月15日(日))

ムイトム宗像(宗像市市民活動交流館)で学校給食フェアが開催されました。(主催:福岡県)
ワンヘルス・食育・地産地消クイズ大会やワンヘルス紹介コーナーが行われ、ワンヘルスぼうやが活躍しました。



草場 治雄 福岡県獣医師会 会長が「旭日小綬章」受章祝賀会を開催されました！

令和8年2月8日(日)、ホテルニューオータニ博多において、当協会の副理事長である草場治雄会長の「旭日小綬章」受章祝賀会を開催しました。当日はご家族をはじめ、来賓、関係団体代表、会員等あわせて約220名が出席し、終始盛大かつ和やかな雰囲気のもと執り行われました。祝賀会は当協会の野原隆士監事の開会のことばに始まり、続いて、発起人代表である藏内勇夫理事が挨拶に立たれ、草場会長が臨床獣医師として地域獣医療に尽力されてきた歩みを紹介するとともに、ワンヘルス推進、災害時獣医療派遣チーム(VMAT)の創設、動物愛護・公衆衛生分野での幅広い功績に触れ、その卓越した指導力と実行力を高く評価されました。来賓祝辞に立たれた服部誠太郎福岡県知事は、草場会長の長年にわたる地域密着型の獣医療活動、狂犬病予防や

動物愛護の推進など公衆衛生分野への貢献を称える一方、VMATの編成と熊本地震における迅速な対応は特筆すべき功績であり、多くの被災動物と飼い主に安心をもたらしたと述べられました。また、福岡県が全国に先駆けて推進しているワンヘルス施策についても言及され、国際会議の開催やワンヘルスセンターの整備、未来世代への教育推進など、県の政策展開において草場会長が果たしてこられた役割の大きさを強調されました。最後に、今回の受章を契機に、今後も県行政への指導と支援を賜りたいとの期待を述べられました。



第6回福岡県ワンヘルス国際フォーラムが開催されました!!

令和8年2月21日(土)「都市と生命(いのち)の共存を考える～気候変動時代のワンヘルス・アプローチ～」をテーマに「第6回福岡県ワンヘルス国際フォーラム」が開催されました。

○2月20日(金) ～エクスカーション～ ～ウェルカムレセプション～

国際フォーラム前日には福岡県のワンヘルス取り組み状況の視察を目的にフォーラム講演者、医師・獣医師などの専門家が参加し、福岡県保健環境研究所を視察したのち、太宰府天満宮を訪れました。



夜はフォーラム講演者、参加者、関係者のネットワークの構築を図るためにウェルカムレセプションがホテルニューオータニ博多で盛会に行われ、参加者は交流を深めました。



○2月21日【午前の部】

・特別講演:「人、動物、環境の健康(健全性)を統合した、健全で安全な未来を築く」
ジャクグリーン・キトゥル博士(世界医師会会長)

ケニアでの事例をもとに、人・動物・環境の健康を統合するワンヘルスの連携が、公衆衛生体制の強化や感染症対策、抗菌薬適正使用、気候変動への対応にどのように貢献してきたかを示し、ワンヘルス推進の未来に向けた実践的教訓を紹介されました。



・ワンヘルス実践発表会:以下の4題の発表がありました。

- 1 「One Health Initiatives at Kyushu University」
横山 文彦(九州大学アジア・オセアニア研究教育機構准教授)
- 2 「Defining the Core Microbiota and Pathogenic Risk of Mixed-species Bat Colonies in Yamaguchi Prefecture, Japan」
ロザリア・ムオンゲリ・マカウ(山口大学大学院共同獣医学研究科)
- 3 「福岡県保健環境研究所における調査・研究等について」
福岡県保健環境研究所 吉富 秀亮研究員
- 4 県立久留米筑水高等学校造園デザイン科の生徒たち
福岡県の指定天然記念物である柳坂首根の榎並木の保全活動について、榎の実を活用したハンドクリームの開発や、剪定くずを利用した着火剤づくりなど、地域資源を生かしながら環境保全につなげる取り組みが、ワンヘルスの実践として紹介されました。



【午後の部】

・基調講演:以下の4題の基調講演ののち、活発な総合討論が行われました。

- 1 「環境の持続可能性、気候変動、そして実践における医療」
ウィリアム・サンダー 博士
(イリノイ大学ワンヘルス・イリノイセンター/獣医臨床医学科准教授)
- 2 「ラオス人民民主共和国における都市レジデンスのための生態系に基づく解決策:都市計画への自然統合」
アヴィ・サルカー 博士(国連ハビタット ラオス事務所長)
- 3 「日本におけるワンヘルス指標の開発」
馬奈木 俊介 博士
(九州大学主幹教授、都市研究センター長)
- 4 「『日本における』薬剤耐性(AMR)への取り組み:ワンヘルスの視点から」
菅井 基行 博士
(国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター長)